



会員数 36 人

北九州プロバスクラブ月報

つながり

No. 179

令和3年5月号

2021. 5, 18



4月例会会長挨拶

古賀靖子

今年は桜の開花も1週間ほど早いということでしたが、一度も花見に行かぬまま春が過ぎようとしています。漢詩に“春宵一刻值千金”と謳われていますが、それに浸るゆとりさえありませんでした。

新型コロナは、緊急事態宣言に準じた「蔓延防止等重点措置」の適応対象が今日の20日から10都府県となりました。「地域ごとにきめ細かく分析、評価する」ということです。今回は比較的若い世代でも重症化しやすい変異株による感染拡大で、来月にはこれが主流になるといわれていますし、大阪は再々宣言の発出を要請し、福岡県も瀬戸際状態です。幸いに北九州市はと申したいのですが、高齢者へのワクチン接種も来春までかかるのでは？用心、用心です。

話は替わりますが、去る4月14日、関連死も含め、276人が犠牲になった一連の熊本地震から5年が経過しました。気象庁は1998年以来、震度5弱以上の大地震の後に余震の確率を発表していましたが、この熊本地震以来、余震という言い方はせず、最初の大地震と『同程度の地震』への注意を呼びかけることになっています。・・・熊本地震の教訓で消えた「余震に注意」です。

本日は、例会前に各委員会でお集まりいただき、次期役員を選出するための選考委員さんを互選で決めて頂きました。その発表は幹事長が行いますが、互選された選考委員の方々は今日の例会後、選考委員長の決定、次期会長候補の決定をして頂きますので、よろしく願いいたします。

では、本日の卓話に入りますが、講師の先生にはコロナ禍のため延び延びになって大変ご迷惑をおかけいたしました。北九州グランフィルハーモニー管弦楽団団長 田室信哉様にご登壇いただきます。

最後になりましたが、第4波と言われるほどの感染拡大です。くれぐれもコロナ対策には気を緩めることなく防御を続けていただき、まだまだ冷える日がありますので衣服の調節を心掛け、来月もお元気で例会へのご出席をお待ちしています。

全日本プロバス協議会事務局報告

8月の五所川原大会は中止に

今年8月8日に青森県五所川原市で開催予定だった全日本プロバス協議会第9回総会・五所川原大会の五所川原大会が中止となりました。新型コロナの第4波が収束するどころか拡大の傾向にあり、ホストクラブの五所川原プロバスクラブが4月20日に開いた実行委員会で中止の決断を下したためです。

事務局では4月23日付で全日本協議会の「ニュース」号外で全国の会員クラブに速報、さらに連休明けに「ニュース」(No.6)を発行して詳細を報告しました。

五所川原大会は新型コロナの流行で昨年8月に開催される予定が1年間延期。今年は20を超える全国のプロバスから総勢170名前後が集まり、プロビアン的一大交流の場になる予定でした。北九州プロバスクラブからも8名が参加の予定でしたが、残念でなりません。

なお、第9回総会は8月、議案を郵送により提案、はがき回答による採決で開催する予定です。(松本)

4 月例会報告

会員出席者：28 名

役員選考委決まる

例会に先立ち、役員選考委員の投票を委員会別に行い、故米谷元則会員へ黙祷を捧げる。

お元気な会員皆様の様子に安堵する。早速、植田会員指導による脳活体操。今回も会員に合わせた体操で心身ともにほぐされた。続いて 4 月誕生者 6 名会員（伊熊、京谷、大川（欠）、岩崎、竹原、植田）に対しカードとお祝い金を、ハッピーバースディを松本会員リードで歌い、コメントをいただく。

会食。会食中、会話は極力控えるよう依頼する。会話しながら和やかな雰囲気での以前の会食に早く戻れることを願うばかりである。休憩。

古賀会長挨拶で再開する。続いて田室 信哉氏（北九州グランフィルハーモニー管弦楽団 団長）による卓話。演題は「コロナ前後のコンサート」の形式、現状と課題。コロナ禍以前のコンサート形式は音を聞きながら全員でハーモニーを作っていたが、2020 年 8 月からは安全対策（弦楽器者はマスク着用、パーテーション設置）を行いながらのコンサートで自分の音しか聞こえない中での演奏となった。また音楽家としての使命を述べられ、フルート独奏「ロンドンデリーの歌」で締めくくった。生の演奏はさすがに素晴らしい、聴き入った。休憩 役員選考委員の発表（古賀靖、内藤、岩崎、新城、大石）。本日第 1 回選考会議。続いて全日本プロバス協議会事務局報告（総会・全国大会）、委員会報告・同好会報告。

楽しみのショートスピーチは和田会員による「初めましておばあちゃん」。幼い頃可愛がってくれた大好きなおばあちゃんに認知症が生じつつある。祖母との思い出とともに祖母を案ずる心優しい孫の切なく、温もりのある話であった。心を揺さぶられた。諸連絡。最後に遠藤会員リードでプロバスの歌を高らかに斉唱した。（中山）

♡ 卓話 ♡



「コロナ前後のコンサートについて」

北九州グランフィル団長
田室信哉氏

小編成ながら美しいハーモニーを醸し出す北九州グランフィルハーモニー管弦楽団。常設としては当市で唯一のこのオーケストについて、団長の田室信哉氏に予てより卓話をお願いしたいと考えつつも時日を要し、この 4 月ようやく実現できた。以下はその要約である。

1 団長のプロフィール

福岡県に生を得た後、4 歳でニューヨークへ。以後アラブの町ドバイに 2 年、次いでロンドンと、父君の仕事で生活の拠点が変わる。音楽では幼児からのピアノに、11 歳からフルートが加わる。以後、英国立音楽大学を卒業までの間、イギリスでの諸受賞やリサイタルの実績が多い。

その後、ドイツでの研鑽（2 年）を経て、2003 年に帰国。北九州で諸々の音楽活動に従事されて現在に至っている。

2 グランフィルについて

前身の「湧き上がる音楽祭祝祭管弦楽団」から 18 年に独立、翌 19 年 7 月に芸術劇場でコンサートが開催された。しかし、昨年来コロナ禍の中で受難の時代を迎え、演奏機会が少ない。楽団の練習もアクリル板の仕切りの中では、隣席との連携も思うに任せない状態とのこと。

3 今後のこと

音楽家の理念として、衣食住に次ぐものとして人々の心に光と希望を注げる存在でありたい由。素晴らしい言葉である。8 月 1 日の北九州音楽祭（響ホール）への出演が期待される。

最後にイギリス民謡「ロンドンデリーの歌」のマイルドなフルート独演を以って卓話が締め括られた。

筆者余談 19 年夏のコンサートはベートーヴェンの交響曲第 3 番「英雄」、ピアノ協奏曲「皇帝」など、正統的なプログラムが美しく演じられた。（竹原）

委員会活動報告

企画委員会 5月7日 7名出席

7月までの卓話計画を協議確認した。尤も、緊急事態宣言に関連し、5月例会の開催如何も未定のため、5、6月の外部講師への対応策も定まらず、柔軟な対応が求められている。(竹原)

親睦委員会 4月13日 17名出席

日帰りツアーを計画しようとの声があがりましたが、5月にウオーキングもあるし、もう少しコロナ禍の状況をみてからということになりました。会議は飲酒なしで、ぜんざいは持ち帰りでした。親睦会で飲食ができるのが先かなと思っています(吉田)

広報委員会 4月27日 8名出席

三密を避ける配慮をしながら湖月堂で夕食を共にして、月報の紙面割を協議。コロナ禍で同好会活動が思うに任せない状態が続き、6月号も記事不足が心配された。しかし、月報はできるだけ継続しようという結論で、そのためにも「感動した話がある」「旅行にいった」などを自由に書いてもらい、それをストックにしようという提案された。会員の詩や短歌など文芸作品も自由で、紙面の空いたときに使うということに話を進めることにした。協力をお願いします。(安高)

活性化委員会 4月22日 8名出席

リーセントホテルを会場に議題は

1、ホームページ制作準備作業

『生きがい作り・社会貢献』を前面に打ち出す。

プロバス20周年記念の写真を随所に盛り込む

北九州市の観光局とのコラボ

2、役員選考に関する検討

次回の役員選考の内規を必要とあれば、活性化委員会で検討する

3、意見交換会を受けての問題提起と改革案 具体的な問題提起の実例とそれに対するたたき台。

活性化の元で検討→拡大委員会なり複合委員会など作るなどを話し合った。

(近藤)

同好会活動報告

歴史文学講座

13世紀頃までのケルン

都市国家シリーズもいよいよ終わりに近く、ライン川河畔の街ケルンに来た。ローマ帝国の東辺、中世ドイツ最大の街である。

久しぶりのコンサート

印象記

竹原英作会員

No53



3月26日、響ホールで久しぶりにオーケストラを聴いた。九響の北九州定期演奏会である。曲はシューベルトの清澄な「交響曲第5番」ハイドンの「協奏交響曲」など。後者ではヴィイオリン・チェロ・オーボエ・ファゴットの4人が主役となる。そのシャープな或いはマイルドな音色、ホールに満ち溢れた大音響の中に身を沈めっていると、すこぶる贅沢をしているような気分になった。

このホールはエコーでは定評があるが、座席数は720と少ない。しかし、見渡すと随分空席が目立つ。入場者は300に満たない。

コロナ対策のためではないとの事。いくらPR不足とはいえ、100万に近い都市が九響を迎えてのコンサートとしては寂しすぎるとの印象は拭えない。採算を度外視した九州交響楽団の啓蒙活動を感謝しながら会場を後にした(竹原)

4月27日、柳澤先生のレジュメには、様々な学者の研究データが添えられていた。そこには領主たる大司教、地方全体の国王、経済力と声望に富む市民の中の名望家、数多くの職業人(同業組合)が現れる。これらの人々が多様な確執と発展のための協力を続けながら、長い歴史を形成してきた筈。これらについては講師の説明は多面的だが、性急な聴き手(筆者)は短絡的にパターンを求めて結論を求めたくなる(反省)。数世紀の亘る都市の盛衰、その背景や状況は簡単には筆舌に尽くし難いものがある。

当講座も5月、洋の東西の都市興隆を総括して終わる予定になっている。(竹原)



(^^♪ お誕生日おめでとうございます。

(敬称略)

伊熊 克美(1日)	岩崎 英子(5日)
京谷 隆(4日)	竹原 英作(17日)
大川 力(4日)	欠 植田佐世子(29日)

▽ふれあい掲示板▽

古賀会長のシャンソンを聴く

5月2日、今年もシャンソンコンサートを聴いた。タカコ先生門下生10名が各3曲を熱唱した。多くがデリケートな人との係わりをテーマにする中で、古賀さんの特徴はこの世界を完全に超越していること。人生回顧を主題にするのは、一昨年来の彼女の選曲の傾向のようだ。

今年の曲はどれも歌詞が素晴らしい。一例だが、第3曲「難船」の大意はこうだ。曾て青い海の彼方に自らの夢を沈める。そして、歳を経て夕日の浜辺に佇む。心で泣いても涙することはない。下手な意識だが、筆者は人生に例えると、大変意味深いものがあると感じた。そして、猛烈に色彩的な歌なのだ。(竹原)

柴村さん 市から表彰

北九州市政の発展に貢献したと、会員の柴村美和子さんが3月28日にリーガロイヤルホテルで開かれた「北九州市表彰」の席で北橋市長から社会福祉功労者として表彰状を受け取った。柴村さんは自治連合会の会計として約15年、また現在も町内会長として10年余務めており、これが認められた。

米谷元則会員逝去のお知らせ



企画委員会、日本酒の会の有力メンバーだった米谷会員が4月10日に虫垂ガンのため、逝去されました。享年79歳。葬儀は13日小倉紫雲閣で家族葬の形で行われました。米谷さんは平成28年4月に入会、翌29年8月例会ではアメリカでの生活体験をショートスピーチで披露されました。写真は所属していた「日本酒の会」でのスナップ。



和田悦子会員

No50



和田さんは福祉関係の会議の席で若者から「こんな手紙があるんだよ」と見せられたという。読むと大学生の孫が認知症になった祖母を訪ねた時の思いが込められていて、一目に気に入り、もらったその詩を紹介した。「ねえばあちゃん はじめまして 今日あなたに会いにきたんだよ」という書きだしで始まり、以下はその内容。

「どちら様かは知りませんが 今日晴れててよかったです」言ってる外は土砂降りだよ 山本さんって呼ぶけれど それは親戚のおじさんだ 僕はあなたの孫なんだよ。

祖母との思い出が続き、最後はねえばあちゃん ありがとうって 言葉は消えてしまうけれど、ねえばあちゃん 溢れ出した この想いは届いてるよね？ と締めくくられた。

この詩は福岡の男性3人組みバンドがCDにして発売、和田さんがもらったのはまだ、発売前のことで、このバンドのメンバーのリーダーの話だと、祖母への米寿のお祝いで孫たちで手紙を書く事になったが「どうせなら曲を作ろう」と、当日自作の歌をギターで披露したという。CD発売後、認知症支援イベントの関係者が集まった会議で、グループは新曲を披露。出席者たちの目から、自然と涙がこぼれたという。(安高)

ありがとう BOX メッセージ4月分 (順不同、敬称略)

★変異株を寄せ付けない。正しい防御をしましょう。(古賀靖子) ★今日も元気だ、ご飯がうまい。歩けば良く寝れる。(脇) ★過ごしやすい良い季節になりました。(遠藤) ★感謝(松永) ★皆様との出会いは最高です。私も頑張ります。(池田成彬) ★コロナが早くおさまりますように(住吉) ★久しぶりに生の演奏に接しました。(京谷) ★主人に元気をもらってがんばります。(吉田秀子) ★ご協力ありがとうございます。(中山) ★終わりが見えぬコロナかな(吉田信雄) ★4ヶ月ぶりの皆さんの笑顔に元気をいただきました、感謝です。(内藤) ★早く平穏な世の中になっていろいろ楽しみたいです。(洞) ★今日も元気に出席できて幸せです。(柴村) ★さわやかな季節心置きなく楽しめる日を待つ(近藤哲生・弘子) ★安高 眞鍋 松本

収支報告	4月末残高	102,601円
	4月分	8,500円
	4月末残	111,101円

